# NEWS RELEASE

# 千葉 興業銀行

2019年3月27日

### 新中期経営計画「コンサルティング考動プロジェクト 2022」

~ より近く。より深く。ともに未来へ。~

株式会社 千葉興業銀行(頭取 青柳俊一)は、2019年4月1日より新たな中期経営計画をスタートさせます。その概要について下記のとおり、お知らせいたします。

記

#### 1. 名 称

「コンサルティング考動プロジェクト 2022 ~より近く。より深く。ともに未来へ。~」

#### 2. 計画期間

3年間(2019年4月~2022年3月)

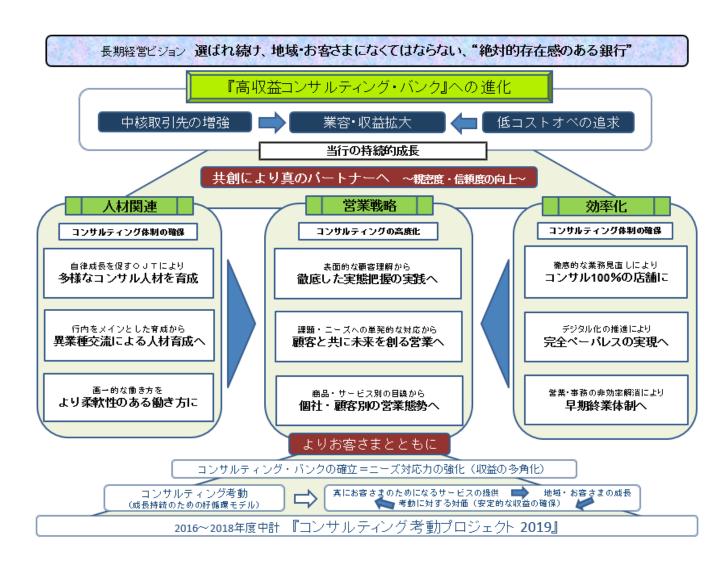
#### 3. 環境認識と計画のねらい

日本経済全体においては緩やかな回復基調を維持する一方で、世界的な政治・経済における 不確実性の高まりや国内の少子高齢化、超低金利の継続、財政健全化に対する懸念等様々な不 安材料が発生しております。その中で、千葉県における今後の経営環境においては、オリンピ ック・パラリンピックの開催や交通インフラの整備等が進む反面、本中期経営計画の期間中に 人口減少への転換が見込まれる等の節目を迎える環境下において、県内中小企業の経営課題や 個人のお客さまのニーズがますます多様化・高度化するとともに、金融技術の進展により、他 業態を含めた金融サービスの更なる競合が見込まれます。

このような経営環境を踏まえ、新中期経営計画「コンサルティング考動プロジェクト 2022」においては、現中期経営計画に基づく取組みを礎として、時代に即した「高収益コンサルティング・バンクへの進化」を遂げるステージと位置づけました。コア戦略となる「コンサルティング考動の進化」をはかる施策に、よりお客さまとともに、未来を築き上げる姿勢を鮮明にし、全職員一丸となり取組み、長期ビジョンである『選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない、絶対的存在感のある銀行』を実現させ、お客さまと当行の持続的な成長と企業価値の向上に努めてまいります。

#### 4. 中期経営計画概要

新中期経営計画「コンサルティング考動プロジェクト 2022」概要



本中期経営計画では、『選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない、"絶対的存在感のある銀行"』の実現に向け、『全職員が主役となる人材育成』によるコンサルティング人材の質向上と『効率化による低コストオペレーションの追求』によりコンサルティング体力の捻出を実現させ、『お客さまとともに歩み続けるコンサルティングへの進化』を遂げてまいります。

#### 5. 重点実施事項

#### 人材関連

- ◆ 自律成長を促す育成方針への変革
- ◆ お取引先等との交流に範囲を広げ、 外部知見の吸収力を強化
- ◆ 多様な生活スタイルに対応し、全職 員が輝ける働き方を追求

#### 効率化

- ◆ BPRによる営業店事務改革の完結
- ◆ RPAによる本部事務削減の完結
- ◆ 徹底的なデジタル化の推進により、 営業・事務両面での効率性を向上
- ◆ 『フィンクロス・デジタル』社の利 活用による新技術の導入

コンサルティング人材の質向上 ・ コンサルティング体力の捻出

#### 営業戦略

#### お客さまとともに未来を創る営業の実践でゆるぎない顧客基盤を構築

- ◆ お客さまのビジョンを共有し、未来戦略をともに創り、持続的な成長を継続支援
- ◆ お客さまのライフプランをともに創り、継続的に共有することで、人生設計を支援

#### 顧客ニーズ起点の提案の徹底によりお客さまの信頼度・満足度を向上

- ◆ 重点対応ニーズへの対応力を徹底的に強化
- ◆ お客さま本位の業務運営の徹底

#### 経営資源の再配分

- ◆ コンサルティングニーズが豊富な県北西部・東京東部を強化
- ◆ コンサルティングニーズが旺盛な世代(50~60歳代)とライフプランを共有
- ◆ 資産形成世代への長期的取組みの強化

#### 非対面取引の拡大

- ◆ 「スマホ」を中心とした非対面チャネル戦略の強化
- ◆ AIの活用等による非対面営業の精度向上

#### コンサルティング営業支援体制の刷新

- ◆ 営業本部体制を企画・支援・推進機能別に刷新し、柔軟でスピードある体制を実現
- ◆ 全ブロックを6エリアに区分し、営業担当役員(エリア長)を配置

# 6. 目標とする経営指標(2022年3月期)

預金残高 : 2 兆 7,000 億円 貸出金残高 : 2 兆 3,000 億円 当期純利益 : 60 億円 普通株ROE : 4.5%

以上